
戸田 晃一（とだ こういち）



【書名】 おくのほそ道——現代語訳／
曾良随行日記付き

【著者】 松尾芭蕉（頼原退蔵、尾形竹 訳注）

【発行】 角川書店（角川ソフィア文庫）

本当は「月日は百代の過客にして…」から始まる松尾芭蕉の書いた文章を味わってほしいが、その準備としてとりあえず現代語訳から。旅というものは、本当はこれくらい無計画に「時」と「その場の雰囲気」に流されながら行うほうが楽しいのかも。

【書名】 JR全線全駅下車の旅——究極の鉄道人生 日本縦断駅めぐり

【著者】 横見浩彦

【発行】 ベストセラーズ

JR全駅下車を制覇なんて、（私を含む）多くの人には意味のないようなことかもしれない。ただそれを真剣にひたむきにやりとげる信念とエネルギーはとにかくすごい。

【書名】 目に見えないもの

【著者】 湯川秀樹

【発行】 講談社（講談社学術文庫）

中間子論を数理的考察と強い思い込み（執念）でつくりあげた湯川秀樹が、科学者としての自身の思想やその哲学などを解説しようと試みている。難しい表現は多いが、一読の価値あり。

【書名】 旅人——ある物理学者の回想

【著者】 湯川秀樹

【発行】 角川書店（角川文庫）

「一日生きることは一歩進むことでありたい」という有名な言葉を残した湯川秀樹の随筆である。書いてあることの全てを理解することは難しいかもしれないが、どこか頭にのこるフレーズが多い。

- 【書名】 ご冗談でしょう、ファインマンさん 〈上〉
【著者】 リチャード・フィリップス・ファインマン (大貫昌子 訳)
【発行】 岩波書店 (岩波現代文庫)

ファインマンは、ジュリアン・セイモア・シュウィンガーや朝永振一郎とともにノーベル物理学賞を授賞した、著名な物理学者の一人である。彼は天才肌の物理学者であったが、その一方でいわゆる「変人」でもあった。決して巷に数多くある自伝のたぐいではなく、自らの人生をユーモアたっぷりに語っている読み物である。本書の続編として『同名〈下〉』や『困ります、ファインマンさん』などがある。

- 【書名】 知っておきたい日本の名字と家紋
【著者】 武光誠
【発行】 角川学芸出版 (角川文庫)

日本人には非常に多くの「名字」がある。その成り立ちや分類などが事細かに書いてあり、非常に興味深い。自分の名字のことが出てきたときには少し感動するかも。同じ著者で類著『名字と日本人——先祖からのメッセージ』(文藝春秋)もあり、こちらもお勧め。

- 【書名】 旧暦で読み解く日本の習わし
【著者】 大谷光男 (監修)
【発行】 青春出版社 (プレイブックス・インテリジェンス)

旧暦は決して昔のものではなく、現在でも我々の日常生活になじみ深いものである。その旧暦とは何か、なぜ日本人の生活(や文化)と密接に関係してくるのかなどが解説してあり、非常におもしろい。

- 【書名】 吉良上野介を弁護する
【著者】 岳真也
【発行】 文藝春秋 (文春新書)

「忠臣蔵」はテレビや芝居でよく扱われるが、本当の話を知っているのか？ テレビなどからの情報だけで分かった気になっているのではないか？ 常に常識となっている事柄に疑いの眼を向けることは科学技術の基本である。本書は悪役として取り扱われることの多い吉良上野介こそが被害者であるという視点に立っている。その真偽は歴史のみが知ること。違う視点にたつて物事を見てみるということ、本書から学んで欲しい。

【書名】非線形科学

【著者】蔵本由紀

【発行】集英社（集英社新書）

自然界に起こる現象の多くは非線形現象である。いや、非線形であるからこそ、多彩な自然現象が出現するともいえる。この分野の第一人者が、森羅万象の起源としての非線形科学を、数式を使わずに、分かりやすく解説した入門書である。

【書名】宇宙=1、2、3…無限大

【著者】ジョージ・ガモフ（崎川範行 訳）

【発行】白揚社

著者のガモフ氏はビッグバン理論を支持する最重要な証拠の一つである宇宙（マイクロ波）背景放射の提唱者の一人である。一流の理論物理学者であり、そして一般向けに難解な物理理論を分かりやすく解説する啓蒙書を多く著している。そのどれもが今も色あせず素晴らしい。その代表作は『不思議の国のトムキンス』であるが、現在は手に入りにくいので、今回は本書を推薦する。（『不思議宇宙のトムキンス』という書籍があるが、これはガモフ氏の死後に他の人により加筆修正されたものである。今回は除外する。）

本書はマイクロ宇宙からマクロ宇宙まで、科学の楽しさをたっぷり味わえる不朽の名著である。数式を用いずにこれらの物理を説明することは非常に難しい。それ故に著者の表現力はすごいと感じる。

【書名】ボクの音楽武者修行

【著者】小澤征爾

【発行】新潮社（新潮文庫）

高校1年生の時に放送部の部員たちが放課後の校庭で朗読の練習をしていた。大声で連呼されていたけったいな書名に何故か惹かれ、翌日図書館に行き見つけたのがこの書籍である。最近になって著者が今や世界的な指揮者である小澤氏であることに気づいた。内容は、音楽を極めるために貨物船に乗って欧州に上陸するまでと、その後の欧州と米国の道中記である。小澤氏が欧州に渡ってから2年余り後に書かれた書籍である。二十代後半の青年音楽家の若い文章であるが、若いから出来る「行動」が鮮やかに描かれている。

【書名】 オックスフォード大学・ケンブリッジ大学の入試問題

——あなたは自分を利口だと思えますか？

【著者】 ジョン・ファーンドン（小田島恒志、小田島則子 訳）

【発行】 河出書房新社

Do You Think You're Clever?: The Oxford and Cambridge Questions (ISBN: 978-1848311329) の邦訳である。英国のオックスフォード大学とケンブリッジ大学で実際に出された面接試験（口頭試験）の問題とその解説が紹介されている。ただ、口頭試問といっても一問一答式ではなく、賛否両論があるテーマ・哲学的な問題・パズル的な問題と多様である。例えば、

- ・あなたは自分を利口だと思えますか？
- ・あなたならリンゴをどう説明しますか？
- ・あなたならどうやってタイムトラベルをしますか？

というものである。題意を論理的に考え、自分の考えをまとめ、その考えを理路整然と説明しなければならない。春休みや夏休みにこれらの問題に対して、自分なりの考えをまとめてみることを勧める

【書名】 鞆談議

【著者】 中谷宗平ほか

【発行】 フェルマー出版（自費出版）

本書は、2013年に自費出版された書籍であり、一部の文具店と革小物屋でのみ取り扱いされている。著者の一人の中谷宗平氏は、神奈川県内の公立高校の数学教諭をしていた方である。中谷氏とはひょんなところで知り合いとなり、本書の刊行時に初版をいただいた。

内容は、中谷氏を中心に集まるかなりくたびれた鞆好きのヲッサンたちが、なぜ自分たちがこれほどまでに鞆に惹かれているのかが、延々と書かれている。皆さんも経験したことがあると思うが、ヲッサンのスピーチは長い。本書は、さながら著者達の写真やイラストのあるスピーチの類のものであった。なお、続編「鞆談議2」が昨年暮れに出版されており、現在は「鞆談議3」の出版を計画しているとのことである。

【書名】 インターネット望遠鏡で観測！ 現代天文学入門

【著者】 慶應義塾大学インターネット望遠鏡プロジェクト（編）

【発行】 森北出版

本書籍は、——いつでも・どこでも・だれでも天体観測——がキャッチフレーズのプロジェクトの活動を紹介する書籍である。

インターネットに接続された国内外の望遠鏡を利用すれば、時間・天候・場所に関係なく天体観測が可能である。操作方法も単純なので、初心者でも簡単にパソコン、タブレット、スマートフォンで観測できる。また、インターネット望遠鏡なら、自宅にいながら継続した観測が可能である。

本書籍では、現代天文学の基本的なことがらを説明するとともに、インターネット望遠鏡 (<http://arcadia.koeki-u.ac.jp/itp/>) を利用したさまざまな観測テーマを紹介することで、天体観測を楽しみながら、天文学への理解をより深めることができるように工夫されている。大学での文系（含教育学部系）の講義にも対応できるように数式を用いた説明があまりないので、理系人間にとっては物足りないという箇所がいくつかある。しかし、ある程度の意欲があれば、中学生でもできる観測の例が紹介されている。